



高橋 堯昭先生



望月 海淑先生



町田 是正先生

追悼

高橋堯昭 名誉教授 世寿 九十三

望月海淑 (文学博士) 名誉教授 世寿 九十一

町田是正 名誉教授 世寿 九十二

三名誉教授のご遷化を悼む

学校法人身延山学園にとって、否、日蓮宗と斯学にとって大きな功績を残されてきた三人の名誉教授の先生方が、令和元年から令和三年の間に次々とご遷化された。令和元年の十月三十日に高橋堯昭名誉教授、折しもコロナ禍の最初の波が始まるうとしていた。ご本葬を待つて哀悼の意を示そうと考えているうちに、コロナ禍により星霜は流れ、令和三年を迎えた一月二十日に望月海淑名誉教授が霊鷲山に旅立たれた。さらには、令和三年十月二十二日、町田是正名誉教授も鷲峰に向かわれてしまった。

本学が改組する以前の身延山短期大学時代、昭和二十年代後半から本学園の前身であった学校法人身延山短期大学学園に奉職された三人の先生方は、三年制短期大学という、二年制短大と四年制大学との特徴の双方を併せ持った教育課程の編成に当たられ、現在の大学教育課程の礎を築かれた。さらに、教学の研鑽は無論のこと、布教方法や時代性を感じ取る感覚を磨かせ、若い日蓮宗教師をあまた育成された。

平成七年四月に短期大学から改組された身延山大学にとつても、三先生は貴重な教育経験をご提供くだされ、学生

追悼（池上要靖）

募集から学修指導は言うに及ばず、学生個々の生活指導にまで気を配られ、時には学生と盃を汲み交わしながら助言を与え、励まし、宗門にとつて有為な人材として旅立たせていった。

教学の研究も三者三様で、高橋堯昭先生は中央アジア、アフガニスタンやパキスタンの遺跡を多く巡り、兜跋毘沙門天の火炎紋の変遷にその晩年の研究を捧げられた。望月海淑先生はサンスクリット語の法華経を中心とした法華思想研究を、なかでも *śraddhā adhimukti* の「信（解）」を探る論考は余人の追隨を許さなかった。そして、町田是正先生は身延山や信徒に関するオーラルな歴史調査から蒐集と、その批判的研究は後学の徒に有益な示唆を与えてくださった。

それぞれのお人柄もユニークであった。高橋先生はその風貌のとおり「豪放磊落」、望月先生は柔和な笑顔で「軽妙洒脱」、町田先生はユツタリとして「泰然自若」と、学生がよく物真似をしていたほど特徴のある語りや仕草をお持ちで、往時の卒業生たちが集まると必ずと言っていいほど先生方の形態模写で座が盛り上がる。

令和四年の今、三人の名誉教授の御姿、御声に浴することは叶わなくなった。我々後進が手本としてきた名誉教授の先生方

高橋堯昭 輪學院日顯上人

望月海淑 修如院日意上人

町田是正 智修院日康上人

衷心より 増圓妙道を念じ 学恩に謝し奉ります。

仏教学部長

池上要靖